

参考資料

鈴鹿亀山、伊賀、伊勢志摩地域における活性化協議会のまとめについて

少子化の進行は加速しており、県全体の中学校卒業者数は、令和7年3月卒の15,718人を指數100とすると、15年前の平成22年3月卒の18,608人が指數118であるのに対し、15年先の令和22年3月卒は9,112人で指數58となることが見込まれています。

こうした中、「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月策定、期間は令和4～8年度までの5年間）に基づき、1学年3学級以下の高校がある県内6地域（鈴鹿亀山、津、伊賀、松阪、伊勢志摩、紀南）に活性化協議会を設置し、15年先までの中学校卒業者数の減少の状況をふまえ、地域の高校の学びと配置の在り方について協議を進めています。

今年度は、鈴鹿亀山、伊賀、伊勢志摩の3地域の活性化協議会において、令和10年度に想定される学級減への対応等について方向性が取りまとめられました。各地域における「協議会のまとめ」の概要は以下のとおりです。

1 鈴鹿亀山地域

鈴鹿亀山地域では、15年先に現在（令和7年度入学者）の1学年28学級から12～14学級程度となることが見込まれています。今年度の協議では、これまでの協議やアンケート結果をふまえ、令和10年度に想定される学級減への対応として、石薬師高校については令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）から募集停止とし、当地域の県立高校6校を5校に再編して、特色化・魅力化を図るとの方向性が取りまとめられました。

【別冊1】令和7年度鈴鹿亀山地域高等学校活性化推進協議会のまとめ

【15年先（令和22年度）を見据えた令和10年度までに想定される3学級減への具体的対応】

※別冊1より抜粋

- 大学進学のニーズに応えるため、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置ができる高校を、地域に1校は配置する。
- 専門学科や専門性の高い普通科のコースなど、多様な学びの選択肢をできるだけ維持する。
- 学校行事や部活動など、子どもたちが協働的に活動できる環境を提供できるよう、可能な限り一定の学校規模を維持する。
- 工業等の学びについては、今ある学びを充実させる。
- 多様な子どもたちが一人ひとりの状況に応じて安心して学べる教育環境を、すべての学校において充実させる。
- こうした教育環境を実現するため、令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）から石薬師高校を募集停止とし、当地域の全日制課程6校28学級を5校25学級へと再編し、各県立高校の特色化・魅力化を図る。

2 伊賀地域

伊賀地域では、15年先に現在（令和7年度入学者）の1学年25学級から10～12学級程度となることが見込まれています。今年度の協議では、これまでの協議やアンケート結果をふまえ、令和10年度に想定される学級減への対応として、あけぼの学園高校については令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）から募集停止とし、当地域の県立高校5校を4校に再編して、特色化・魅力化を図るとの方向性が取りまとめられました。

【別冊2】令和7年度伊賀地域高等学校活性化推進協議会のまとめ

【15年先(令和22年度)を見据えた令和10年度に想定される1学級減への具体的対応】

※別冊2より抜粋

- 大学進学のニーズに応えるため、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置ができる1学年あたり6学級の高校を、地域に1校は維持する。
- 専門性の高い学びを含む多様な学びの選択肢をできる限り維持しながら、専門学科や総合学科の系列における共通した学びの集約を図る。県内で唯一の「美容の学び」についても当地域の総合学科において維持させる。
- 学校行事、部活動など、子どもたちが協働的に活動できるよう、可能な限り一定の学校規模を維持する。
- 定時制のあり方や入試制度を含め、学びのセーフティネット機能の充実を図り、不登校を経験した生徒、外国につながりのある生徒、特別な支援が必要な生徒など、多様な子どもたちがどの学校においても安心して学べる教育環境を整える。日本語の指導や「学び直しの機能」の充実については定時制を中心に進め、通級による指導については全日制への導入をめざす。
- こうしたことから、令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）からあけぼの学園高校の募集を停止し、5校を4校に再編することにより当地域の子どもたちの多様で豊かな学びを維持するとともに、当地域の県立高校の一層の特色化・魅力化を図る。

3 伊勢志摩地域

伊勢志摩地域では、15年先に現在（令和7年度入学者）の1学年29学級から11～14学級程度となることが見込まれています。今年度の協議では、これまでの協議やアンケート結果をふまえ、令和10年度に想定される学級減への対応として、南伊勢高校度会校舎と志摩高校の2校については令和10年度入学者選抜（令和9年度実施）から募集停止とし、当地域の県立高校9校を7校に再編して、特色化・魅力化を図るとの方向性が取りまとめられました。

【別冊3】令和7年度伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会のまとめ

【15年先(令和22年度)を見据えた令和10年度に想定される3学級減への具体的対応】

※別冊3より抜粋

- 大学進学のニーズに応えるため、多様な選択科目の開設や専門性の高い教員配置ができる1学年あたり6学級以上の普通科高校を、地域に1校は維持する。
- 現在ある専門的な学びを含む多様な学びの選択肢をできる限り維持する。
- 学校行事や部活動など、子どもたちが協働的に活動できるよう、可能な限り一定の学校規模を維持する。
- 総合学科の学びのあり方については、引き続き協議する。
- 多様な背景をもつ子どもたちが安心して学べる環境のあり方については、引き続き協議する。
- こうしたことから、令和10年度に南伊勢高校度会校舎と志摩高校の募集を停止することとし、全日制課程の県立高校9校を7校に再編して、これまで両校が担ってきた地域の学びを引継ぎつつ、学びを整理統合することで、伊勢志摩地域全体の県立高校の学びの充実を図る。
- なお、伊勢志摩地域における多様な学びの提供を保障する観点から、15年先に3校程度に集約されるうちの1校となる、県内唯一の学科を有する水産高校においても、進学や就職などの多様なニーズに応える普通科に準ずる学びを取り入れる必要がある。